

飛び地 村ぶろ じやばら 筏下り

日本で唯一県境を越えた飛び地の村・北山村の「村ぶろ」が、二〇〇七年度の日経地域情報化大賞日経MJ賞を受賞した。他にも全国オノリーワンがあるユニークな村らしい。とにかく行ってみようと思い立った。

和歌山県なのに県境越え 「全国唯一の飛び地の村」

新宮市北部から国道169号に入ると、すぐに奈良県境を越えた。途中で大きな滝があつたり、山中の国道は、昼なお暗い森を縫うように走る。車が北山川沿いに出ると、視界が開け、そこが和歌山県の奥滝峡だた。岩をかむように水しぶきを上げる急流と、ゆったりした流れが交互に現れる。雨上がりで雲が低くなびき、まるで水墨画のような風景に息を呑んだ。対岸は三重県。九七%が山林、六十五歳以上の高齢化率が四五%を超える過疎の村は、離れて小島のように三重、奈良両県に囲まれている。



花粉症対策にも…

幻のフルーツ「じやばら」

じやばらの名称は「邪を払う」から来ており、村では正月料理に欠かせない縁起物だったが、「タネの少ないユズ」という程度の認識だった。しかし、一九七二年に「世界に例のない新品種」と確認、一九七九年には農業種苗法の品種登録が認められた北山村にしかな農業で栽培している。六年前、愛用者から寄せられた「花粉症に効く」という情報をモニター調査で

確認。四年前には県工業技術センターが、アレルギー抑制効果を持つ物質が含まれていることをつきとめた。年間三千万円程度だった果実と加工商品の販売額が、それ以後、一気に跳ね上がり、今年度は約二億五千万円を見込む。財政規模が約十二億円の村にとっては貴重な財源だ。ジュースや料理に使う生果汁、じやばらはちみつ漬なども人気があり、年末には「じやばら化粧品」も発売の予定だ。

村外に持ち出しても、なぜか、育たないという。村営農場六ヶ所など計八ヶ所で栽培しており、ゆずより豊富な果汁、際だつ香りが特長。安全安心の無農薬で栽培している。六年前、愛用者から寄せられた「花粉症に効く」という情報をモニター調査で

十一月中旬から筏師も協力して収穫し、じやばら果実は年内に消費者に届けられる。

どうして「飛び地」になったのか。数百年にわたって林業が盛んだった北山村は、筏流しで木材を河口まで運んでいたため、その集

積地である和歌山県新宮市とは強

じやばらで作られた製品などが並ぶ北山村の物産



緑色の状態で収穫が始まるじやばら

爽快「筏下り」が人を呼ぶ

どうして「飛び地」になったのか。数百年にわたって林業が盛んだった北山村は、筏流しで木材を河口まで運んでいたため、その集

積地である和歌山県新宮市とは強

じやばらで作られた製品などが並ぶ北山村の物産

この生活は快適。百点満点です

この村を支えていく

夕暮れの村を歩いていたら、自

然・田舎、手作りパンなどのテ

マ別、東京在住の会員が作った

「東京都北山村」のような地域別コ

ミックル村民」は約六千五百人。村の人

員は、一方的に情報発信するのでなく会員同士が交流するブログ

重視した会員登録制度にし、今年

六月にオープンした。

受賞したのは「村ぶろ」。お風呂のことではない。ブログ（日記風のホームページ）の玄関口・ポートサイトのこと。自治体運営のブログポータルサイトは日本初だ。

きっかけは奥田貢村長の「ネットで北山村ファンを増やせないか」というアイデア。村役場の職員は、一方的に情報発信するのではなく会員同士が交流するブログ

に狙いを定めた。行政の安心感を重視した会員登録制度にし、今年

六月にオープンした。

「筏下り船頭日記」など思わず読みたくなるコーナー、釣り、自転車などのコンテンツが次々に登場し、一日五、六万件のアクセスがある。現在「バーチャル村民」は約六千五百人。村の人口五百二十人の十倍以上だ。バーチャル村民が実際に村に足を運び、村民と顔を合わせる「リアルな交流」も始まっている。

い結びつきがあった。そのため明治時代の廢藩置県の際、村民は和歌山県に加わることを強く望んだという。元筏師の東渉さん（七九）は「収入は普通の人の四、五倍。新宮の情報をキャッチし、着る物もおしゃれで、筏師はもてたよ」と目を細める。平成の大合併の際にも、県境を越えた合併で飛び地を解消する選択肢もあったが、村民投票の結果、七三%の高率で「飛び地の和歌山県民」を選んだ。

一九六五年に発電用ダムが建設され、筏流しは終焉を迎えたが、一九七九年、「観光筏下り」として復活した。これも国土交通省認可の全国オノリーワンだ。手すりはあるものの、丸太を組んだだけの筏で激流を下るスリル、爽快感が人気を呼び、一シーズン七千人以上上の集客力があるが、筏師不足で予約に応じきれないのが悩み。後継者を募集しており、五年前に神戸市から移住した廣川幸一さん（三九）は「お客様の安全を考えながら筏を操るのは難しいけど、ここ的生活は快適。百点満点です」と満足げだ。

翌日、北山小学校にお邪魔した。全校児童十七人。「北山村が好き？」と聞いたら、全員が元気いっぱい手を上げた。「将来都会で働きたい人は？」には、十人以上が手を上げたが、「一生都會で暮らす」と聞くと、声を合わせて「一生は嫌や。北山に帰ってくる」と答えてくれた。

翌日、北山小学校にお邪魔した。全校児童十七人。「北山村が好き？」と聞いたら、全員が元気いっぱい手を上げた。「将来都會で働きたい人は？」には、十人以上が手を上げたが、「一生都會で暮らす」と聞くと、声を合わせて「一生は嫌や。北山に帰ってくる」と答えてくれた。

奥滝峡の雄大な景観、物音一

つしない夜の静けさ。魅力たっぷりの北山村をこの子どもたちが支えていく。北山

村は訪れる者を癒し、明るい気持ちにしてくれる村だった。



北山川を下る「北山村観光筏下り」(5月～9月)

水墨画のような北山川。訪れる者を癒してくれる。